

校長室からひがしなら通心

(H29年度) 茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 32

平成29年11月10日(金)発行

教育の本質とは… ～ある本の一節より～

読書の秋です。最近読んだ本の一節を紹介します。とても納得させられました。親として考えさせられました。自分の子にできていたのかと。

～「当たり前のこと」に、教育の本質がある～

学校の保護者会で、同僚の先生が、「お母さんが子どもに玄関の履物をそろえさせる家庭教育の話」をなさったことがあります。私は、それを受けて、教育とは難しいことや目新しいことをすることではなく、当たり前のことを当たり前のようにすることではないかと話しました。

家に帰ったら、「ただいま」と言う。家にいる人は、「おかえりなさい」と言う。朝起きたら、「おはよう」と言う。夜寝るときは、「おやすみ」と言う。こんな当たり前のことが、いまの社会では、案外できていないのです。家庭でも、学校でも、地域社会でも、できていません。

それどころか、国家百年の大計といわれる「教育」を専門にする国立大学・学部においてさえ、学生も教員も、廊下で出会って挨拶一つできません。これで、本当に、人を導くありようが考えられるのでしょうか。

当たり前のこと、というのは、考えようによっては難しいですが、難しく考えすぎることにもありません。

親の役割としては、朝は朝食をとらせて「いってらっしゃい」と言って送り出す。夕方には、夕食をつくって、みんなで食べる。夕食の後は、みんなでくつろいで話す。学校で弁当がいるときは、弁当をつくる。お母さんが忙しいときは、子どもに手伝わせる。子どもがつまずいたら、親の体験談を話して聞かせる。子どもがしていることがよくないときは、本気で叱る。子どもの小遣いの額は、親が決める。子どもが着る服は、親が買う。

勉強がわからないときは、親も相談にのる。親がわからなければ、調べる方法を一緒に考える。本や文房具を大切にする。家族みんなで仕事を分担する。家族が病気をしたら、みんなで助け合う。おじいちゃん、おばあちゃんを大切にする。

人間がすることですから、完璧にはできないでしょうし、できないこともあるでしょうが、こうした当たり前のことをおろそかにしたままで、「新しい教育」など存在しないのです。

真の教育とは、決して大言壮語（たいげんそうご）を言うことではありません。挨拶をする、紙屑を拾う、身なりを整えるなど、日常の些事（さじ）にあるのです。

神戸女子短期大学 学長 長瀬 壮一



おめでとうございます！

11/5(日)、国際平和ポスターの表彰式が生涯学習センターのきらめきで行われました。(茨木ライオンズクラブ主催) 本校からは、金賞：村崎 司さん(6年生)、銀賞：横田 剛宙さん(6年生)・大村 心人さん(5年生)、銅賞：奥本 陽太さん(6年生)・富原 澄さん(6年生)の5名が入賞しました。おめでとうございます！

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ロン・クラーク 草思社

ルール18 宿題(しゅくだい)に文句を言わない

先生が宿題を出したとき、不満そうな声をあげたり、文句を言ってはいけません。

●何かを頼むとかならずいやそうな顔をする人と、いつも気持ちよくやってくれる人と、どちらがいいだろうか。やらなければいけないことはさっさとやってしまうほうが、はるかに気分がいいものだ。

- | | |
|---|---|
| ☐ とつにみんなでまともろう！ | ☐ いさつができる子 |
| ☐ くりょくと体力をのばそう！ | ☐ いっしょうけんめい勉強する子 |
| ☐ しっかりせいかつしよう！ | ☐ うんどうが好きな子 |
| ☐ かよく友だちとすごそう！ | ☐ がおでやさしい子 |
| ☐ んらん夢に向かう東奈良っ子！ | ☐ おそうじをがんばる子 |